日刊工業新聞

| 年月日 | 19 | 11 | 27 | ページ | 27 | NO. | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|

# インフラ研究拠点開設

## 愛媛大、地域・産業と連携

【松山】愛媛大学は、12月1日付で「工学部付属社会基盤iセンシングセンター」を開設する。社会基盤構造物や社会情報システムなどに関する工学部の知見を同センターで集約し、国や自治体などの技術ニーズに応えていく。地域社会、産業と連携する工学部付属のセンター設置は3件目。工学部では今後開設するセンターも合わせ、地域連携の基盤「エンジニアリングモール」形成を目指す。

### 工学部の知見集約

社会基盤iセンシングセンターは〝インフラ〟を連携テーマにする。道路や橋梁などの維持・管理、〝まちづくり〟に活用する国や自治体、民間非営利団体の技術ニーズを想定し、同センターが新しい計測手法や分析手法、問題解決策を提案していく。実証フィールドを得て、実用化のための概念実証（PoC）を推進する。

センターを置く工学部本館

定期的に関連機関と意見交換し、まずは5年程度で一定の成果を出したい考えだ。さらに計測、分析、問題解決を統合的に学べる社会人向けのカリキュラム策定も目指す。センター長には中畑和之工学部教授が就任し、工学部の教員40人が兼任で参加する。

工学部付属センターは造船人材の育成を図る船舶海洋工学センター、中小企業の技術・製品開発を支援する高機能材料センターを設置済み。工学部の研究力や開発力を産業分野ごとに〝見える化〟する一方、教員の活躍の場を広げている。

付属センターは工学部主導で柔軟な組織運営ができるため、複数のセンターを集めた基盤「エンジニアリングモール」により、地域と関係を築き、学部の機能強化を進める。

無断転載・複写禁止ⓒ㈱日刊工業新聞社